

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

# mingle

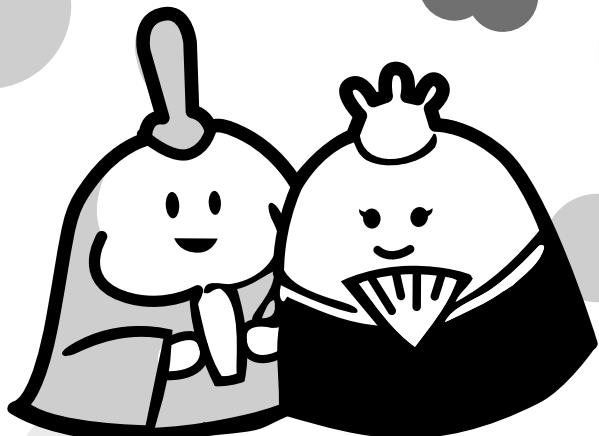
みんぐる

2016.3  
3月発行  
Vol.51

Top News

READY FOR?

ご支援、ありがとうございました！



## 特集 都立高校 外国人枠の結果報告

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索

多文化VOICE 4

イチオシ & ボランティアの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね！多文化共生センター東京のできごと 9



認定NPO法人

# 多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました!

<http://tabunka.or.jp/>

[facebook.com/tabunkatokyo](https://facebook.com/tabunkatokyo)

@tabunka\_tokyo

## 私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。

外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

### 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### 少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

## 私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、  
日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

## 私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

### :たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報をお届けしています

### :教育相談

### :多言語による高校進学ガイダンス

多くの皆さんに知っていただくための  
働きかけをしています

- : 外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査
- : 研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー
- : メールマガジン、ブログ、ニュースレター「みんぐる」の発行

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

### :子どもプロジェクト (学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一对一でサポート

### :親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一对一でサポート



# READYFOR?へのご支援、 ありがとうございました!



2015年10月23日から12月22日まで、「たぶんかフリースクール新宿校」を存続させるためにクラウドファンディング「Ready for? (レディフォー?)」で、「高校進学を目指す外国ルーツの子のために学習の場を存続させる!」プロジェクトを実施しました。

多文化共生センター東京では、学ぶ場を求める「外国にルーツをもつ子どもたち」のために「たぶんかフリースクール荒川本校」と「たぶんかフリースクール新宿校」の2校を開設しています。安定した学ぶ場所の確保は、子どもたちの学びを保障するための最も必要な条件の一つですが、当団体を含む多くのサポート団体は、数年での移転や高額な家賃などにより、常に不安定さを抱えた厳しい運営を余儀なくされています。

現在、荒川本校は、荒川区のご厚意により廃校になった小学校の一部を無償でお借りしていますが、新宿区の大久保にある「たぶんかフリースクール新宿校」は、民間のマンションを借りて運営しており、毎月22万円の家賃が発生しています。公的支援として新宿校の家賃にもあてていた国からの支援は、そのやり方が変わったため2015年度から受けられていません。

そこで今後も「たぶんかフリースクール新宿校」を継続し、子どもたちの大切な学びの場を保障するため、クラウドファンディング「Ready for? (レディフォー?)」に挑戦しました。クラウドファンディングとは、インターネットを通して広く不特定多数の方から資金を集めます。当団体は、インターネットで寄付を募集することをあまり行ったことがなかったため、子どもたちや「新宿校」のことをインターネットを通してどれだけ伝えることができるか、共感を得ることができるのかという不安と期待が入り混じった中で、プロジェクトはスタートしました。

その結果、予期せぬほど多くのみなさまからのご協力を得ることができました。140名の方々がスポンサーとして参加してくださいり、目標金額150万円をうわまわる187万円の資金が集まりました。サポーターの皆様の中には、このReady for のプロジェクトではじめて学齢超過の子どもたちの存在や課題を知ったという方もいらっしゃいました。ご支援をお願いするという目的に加え、このように私たちの活動や子どもたちへの理解が広がったことは大きな成果の一つだと思います。

今後の新宿校の運営について、2016年前半までReady for のご支援金を家賃にあて、後半以降については、助成金やご寄付によって教室を継続していく予定です。子どもたちの高校進学の道が閉ざされないように、今後もこの大切な学びの場を守っていきたいと思います。

プロジェクト実施中、Facebook や twitter で情報を拡散していただいたり、直接このプロジェクトのことをお知り合いにお話ししてくださいたりと、大変多くの方にサポートをいただきました。ご支援くださったすべての皆様にあたらためてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

たぶんかフリースクール  
新宿校

「たぶんかフリースクール新宿校」は、2011年に荒川校へ通うのには遠い多摩地区や23区西部に住む子どもや保護者からの要望で設立されました。

開設以来、これまで71名の外国にルーツを持つ子どもたちが学び日本の高校へ進学しています。年を追うごとに生徒数が増え、子どもたちのルーツも多様化しています。2015年度は、フィリピン・中国・ネパール・ミャンマー・パキスタン・コンゴ民主共和国・インド・アメリカにルーツを持つ27名の子どもたちが高校進学を目指して学んでいます。

# 特集

都立高校

# 外国人枠の結果報告



1月26日、都立高校では推薦入試とともに、来日3年未満の外国籍の生徒が受験できる「在京外国人生徒対象入学者選抜」実施5校のうち4校の試験をおこなわれました。内容は英語または日本語の作文と面接で、フリースクールの生徒たちも荒川校17人、新宿校14人の生徒がこの試験に挑戦しました。

生徒たちは授業中に先生方から指導を受けるだけではなく、放課後や土曜日にたくさんのボランティアさんに一緒に練習をしていただきました。いつも多文化共生センター東京をサポートしてくださっている、ギャップジャパン、セールスフォース・ドットコム、UBSグループ(UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店、UBS アセット・マネジメント株式会社)、からもたくさんの社員ボランティアさんにいらしていただきました。

作文は日本語なら600字、英語なら300word程度で、子ども達にとって簡単なことではありません。コンゴ民主共和国出身のJくんは4月に来日して日本語をはじめて勉強しましたが、この試験を目標に漢字もどんどん覚えてとてもいい作文が書けるようになりました。英語は話せるけど文章を書くのが苦手だったフィリピン出身のRくんは、土曜日にボランティアさんから熱心にご指導いただき規定の量を書ききることができるようにになりました。

面接も、みんな放課後まで何度も何度も練習しました。母語でない言葉での面接は何回やってもとても緊張します。聞かれたことがわからなかったらどうしよう、自分の言いたいことがちゃんと伝わるだろうか、などと不安でいっぱいだった生徒たちも、講師の先生やボランティアさん達に励まされるうちに、なんとか落ち着いて臨めるようになってきました。

そして2月2日の合格発表。朝からやきもきして待っている担任の先生のところに次々と合格の連絡がはいり、いつも穏やかな先生方がこの時ばかりは歓喜の大声をあげ、電話に向かって「おめでとう」を何度も繰り返していました。結果は31人中27人が合格。合格手続きが終わって意気揚々と現れた生徒たちはみな一様にすっきりとした凛々しい顔をしていて、この合格が彼ら・彼女らに与えた自信を感じることができました。(事務局)



## 各校の作文のテーマ

飛鳥高校 「母国語が異なる相手に対して、あなたは自分の考えをどのように伝えてきましたか」

竹台高校 「あなたの国の習慣で素晴らしいと思うことをひとつ取り上げて、紹介してください」

田柄高校 「あなたの国の有名な人の名前をあげて、彼らのことを日本人に紹介しなさい」

南葛飾高校 「あなたは高校卒業後、何をしたいですか。

そのために、高校生活すべきことはどのようなことですか」

※国際高校の在京外国人対象入試は2月17日

## 生徒たちが試験後に感想を書いた作文をご紹介します。



Jくん コンゴ民主共和国出身 16歳

2015年4月来日。たぶんかフリースクールに加わった7月にはまだ日本語を勉強しはじめたばかりでしたが、あっという間に上達し、作文もしっかり書けるようになり、みごと在京外国人枠に合格。高校では得意の理科の勉強をすることや、サッカーチームにはいることをとても楽しみにしているそうです。

私は先週火曜日にテストを受けました。そのために私は十月からたぶんかフリースクールで作文とめんせつの練習をがんばっていました。それは私だけではなくほかの人も、特に中国人やネパール人やフィリピン人の友達もがんばっていました。先生達は私達にいろいろなことを教えてくれました。それからみんないっしょに勉強しました。テストの時作文のテーマは「あなたが高校を卒業したらなにをしたいですか。そのために高校でなにをしなければなりませんか」。私は高校卒業したら大学の医学部にはいりたいです。医者になるためにいっしょに勉強するつもりです。なぜなら世界のおおぜいの人たちをたすけてあげたいとかきました。そして面せつでいろいろなこときかれました。私はだいたいのしつもんに答えることができました。

Sさん 中国出身 16歳

2014年6月に来日。昨年度の在京外国人枠の試験を受けたものの不合格で、今年再チャレンジするために日本語学校に通ったのち、11月からたぶんかフリースクールで勉強をはじめ、今年は見事に合格！4月から待望の高校生です。

高校の在京外国人試験の作文が「あなたの国の素晴らしい習慣はなんですか」。このテーマは練習しなかったテーマだから、このテーマを見た時、私は慌てました。しばらく考えましたら、中国の正月が素晴らしい習慣と思いました。それで中国の正月を書きました。途中で日本語がわからない言葉も何個かありました。

面接で、教室に入ったばかりの時、私は緊張しました。一番目の質問は「あなたが高校で日本語を勉強するために何か準備をしていますか」この質問の意味がちょっと分からなかったから、私は何か物の準備と思いました。ちょっと慌てました。でも先生達がやさしくて私はだんだん冷静になりました。面接中準備しなかった質問も何個かでしたが、ほとんど準備した質問です。それで私は多文化で色々な質問を準備して、先生が私達に面接の練習してくれたことがよかったです。

# 多文化 VOICE

## 景山 宙さん

私は 1991 年（当時 6 歳）に中国四川省から母と共に栃木県に移り住んだ。父はその 3 年前に来日し、アルバイトしながら大学に通っていた。来日当初はお金がなく、母は昼夜工場でアルバイトに明け暮れ、父も昼は建設現場で働いた。家具や自転車等は粗大ゴミ置き場などから拾って修理して使った。住居は月 2 万円で廃屋の社宅の管理人室を借りた。親の帰宅は遅く、いつも 1 人で夕食を食べて日本語を暗唱していた。夜の家の暗闇が不気味で怖かった。中 2 の時、父がリストラに遭い、家も立ち退きになった。絶望が一家を包み、口論が絶えなかった。大きな期待の後の絶望はともすれば身内への攻撃や心中に向かうのだと知った。結果的に父の働き先は見つかったが、私の将来を案じ、そして差別されないように、家族で帰化をした。当時は親を恨んだが、今自分が親になり、親の辛さや苦しさが沁みるように分かる。長い年月を経てわだかまりが解消されたと思う。来日から四半世紀経ち、今までの経験を人のために活かしたいと思った。そこで今回は、日本で生きる上で大切な事を僭越ながら 2 点紹介したい。なお、私が家庭内で感じた悩みや葛藤は、別途まとめたので参考されたい<sup>i</sup>。

まずは、自己肯定感だ。貧しさや軽蔑等を受けて劣等感や疎外感を持ち、それを取り戻すために自分を大きくみせたり高望みした。何をしても続かない満足しない時期が続いた。自己肯定感を得るために膨大な時間と労力を費やしてきた。でも今私は地に足をつけて生きている。それは、自分の努力による達成感、読書や人との出会いによる自己認識、そし

メーカー勤務と大学院での研究の傍ら、学生団体 CCS の運営や当事者のキャリア支援事業の企画をしています

て CCS<sup>ii</sup>で出会った友人が対等に付き合ってくれたからだ。おかげで、自分の運命を受け入れ前向きになれた。

次に、社会資本<sup>iii</sup>も重要だ。例えば、親が公民館で教えていた中国語講座の生徒は、私達を尊敬してくれた。部活の部員の親は労働者が多く、親の奮闘を励ましてくれた。貧しさや劣等感を共有していたのだろう。また、親のメンタリティーにも影響された。40 歳で来日し日本語を覚え、学を修め、不況下でも家族を守る。氷のように冷たい社会制度や職場での待遇にも負けずに向き合う。その姿勢から多くを学んだ。振り返ると、自信がつくと友人が増え、友人が増えれば自信がついた。また、私達の努力や奮闘を理解し認めてくれる方がいた。実際に様々な経験や人が私の支えになったと思う。

以上が日本で生きる上で大切だと思う事だ。日本で移民として生きるのは楽ではない。1 世は土を耕し 2 世は種を巻き 3 世で花を咲かす。それくらいの時間と覚悟が必要だ。常に前を向く事が肝要だ。とはいえ、私はまだ恵まれていた。それに感謝し、今後は人のために生きたい。

昨今、外国にルーツを持つ子どもへの支援が少しずつ広がり、嬉しくそして羨ましく思う。ただ、技術革新は速く、単に語学や勉強ができる生き残れない時代になった。ゆえ、交渉術や起業方法、金融知識、デザイン、プログラミング等を学ぶ機会も必要だろう。これらはきっと彼らの強みとなり生きる道になるはずだ。学習支援に加え、彼らを意味付けし新しい価値を社会に提案する役割も求められていると思う。

i <http://www.j-mce.org/?m=201507>

ii 世界の子どもと手をつなぐ学生の会

iii 社会的ネットワークにおける人間関係のこと。社会の信頼関係やネットワーク等人間の協調行動が活発化し、社会の効率性が高まることで人々がもつ信頼関係や人間関係をあらわしている。

# イチオシ

「生きる力をつちかう言葉 言語的マイノリティーが声を持つために」  
田中望、春原憲一郎、山田泉 編著

マイノリティーが、日本社会に生きるうえでの文字教育のあり方をテーマにした対談集。

アジアの定住外国人が日本社会で自分の意見を述べられる独立した存在になるには、という課題から始まる日本語教育の専門家による対談は、元戦争孤児から精神・聴覚障がい者の言語獲得と、共同体のあり方まで話題が広がる。

高野雅夫は、識字運動に関わる活動家。旧滿州から日本に引き揚げ、浮浪の日々を過ごすが、朝鮮人のおじさんの出会いや夜間中学への入学をきっかけに文字を知ることで「人間としての自分」を奪い返した過酷な体験を語る。

やがて文字による尊厳の確立を訴える彼が、韓国で読み書きのできない年配女性達への教室を開く運動家に感銘を受けた経験は、日韓動乱の歴史と女性差別に翻弄された在日朝鮮女性の静かな苦悩と、「教育による一方的な価値観の植え付けによる問題点」へと語り継がれる。

さまざまな社会背景、または多くの人が享受する支配的な価値観が障がい者をふくむ異文化を淘汰する過程が本書では克明に記されているが、同時に「声なき人」の弱味が持つユニークな視点と強烈な個性を生かしたコミュニティの必要性と実践が、読者に新鮮な印象を与えるだろう。浦河べてるの家と D プロがその代表例で、両者ともハンディならではの不満や趣味を語らう単なるサークルにとどまらず、「一個の文化集団」として一般人と対等に意見を投じる活動が行われている。

一度開けば目が文字に吸いよせられるような読みやすさと、五人の波乱に満ちたドラマは一つ一つの言葉が切実で私自身、ページをめくる手がとまる時もあった。

文字が持つ人格を育てる力と、国や集団にとらわれ依存させる弊害。本書は現代人と、日本の教育への痛烈なアンチテーゼとなっていると感じた。(ノイワエ)



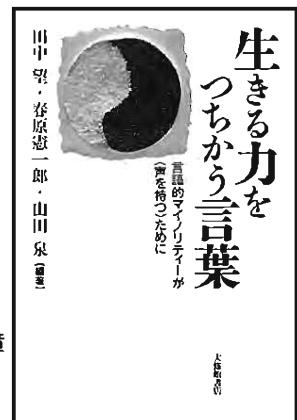
昨年の 6 月からこちらでボランティアに参加しています。羽深です。土曜日に自主的に多文化に来て、のびのびしながらも真面目に勉強する子どもたちの姿にいつも感心しています。

多文化に通う大半の子どもは、自ら進んで日本に来たわけではありません。私は自分の意思で数ヶ月留学した経験がありますが、それでも、当初感じたストレスはとても大きいものでした。言葉や文化の違いは勿論、街中を歩くときに外国人というだけでジロジロ見られたり、からかわれたり、嫌な思いをすることもありました。それを思うと、多感な時期に異国の地で生活し、高校進学を目指すことがどれだけ大変か…私が想像する以上の葛藤があるのではないかなど思います。

私が留学期間を乗り切れたのは、留学仲間との交流や、ステイ先の家族を筆頭にした現地の人々の優しさに支えられたからです。留学仲間と日本語を使ってのくだらない雑談はストレス発散になりましたし、現地での情報を共有することも出来ました。現地の人にはネイティブならではの言い回しや仕草を教わったり（街中で知らないおじさんに巻き舌を教わり誉められたのは良い思い出！）、困っている時に手助けしてもらったりしました。

同じ境遇の仲間を繋がることができ、現地の人からのサポートを受けられる。そのような意味で多文化は、子どもたちの心の支えとなる要素を兼ね備えていると思います。学校や塾にはない、多文化の大きな強みです。その環境をつくりだしているスタッフの方、ボランティア、何より一生懸命な子どもの姿を見ると、私も出来ることをやらなければ！という気持ちになります。

私は教員免許を持っておりませんし、外国語も片言程度しか話せません。そんな私でも、ボランティアの立場だからこそ出来ることがあると思います。それが何か手探りしながら、これからもこの活動に参加したいと思います。



発売元：大修館書店  
本体 1,800 円+税

# たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA  
FREE SCHOOL.



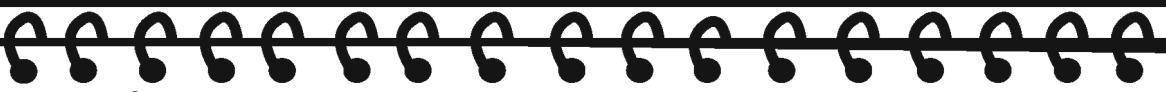
## ＜たぶんかフリースクール（荒川校）＞

今年度も在京外国人入試用紙を切りに、熱いシーズンがスタートしました。在京外国人では、受験ができる高校が増えたことと一般入試3教科での受験校が減ったこともあり、今年はたぶんかフリースクールから多くの生徒が受験しました。4月から生徒だけでなく、8月以降に登場した生徒たちと共に面接練習や600字の作文の課題によくがんばってきました。始めは他人事のようにのんびりしていた生徒たちも、間近に迫ってからの面接練習では、気迫がこもっていてどの生徒もいつもと違った顔っていました。多くの人達の支えもあって、発表の日は喜びの報告をたくさん受けることができました。

そんな中で、「おめでとう、よくがんばりましたね」とひとりの生徒に声をかけると、その生徒は「私は、

そんなにうれしくないよ、先生。残念な生徒さんいますでしょ。皆じゃないです。だから私あまりうれしくありません。」と言って、ちょっと悲しげです。教室をのぞくと、もう一度チャレンジの友だちに自分の過去の模擬テストを参考に見せたり、問題と一緒に解いたりしていました。

私たちは、みんなで発表の日の喜びを分かち合うことが望みですが、残念だった生徒がいれば心は晴れません。でも、もう一度がんばる生徒やこれから受験する生徒のことをやさしく気づかい、思いやつて応援する生徒達の姿を目にして、心から「ありがとう」の気持ちでいっぱいになりました。まだ少し最後の努力が必要な生徒達が多いのですが、多文化で得たことを大切に飛び立っていけることを祈ります。（藤井）



## ＜ハートフル＞

昨年の12月9日に、ハートフル日本語適応指導（補充指導17:30~19:30週3回）で学んでいた生徒5人が通室指導と合わせて5か月間の学習を終了しました。5人になってからは一人一人の興味関心、学力に合わせて進めることが容易になり、生徒同士はもちろん指導者との心のつながりもより深くなっています。最後の時間に心のこもった挨拶を聞き、これからもひき続き頑張ってほしいという想いでいっぱいになりました。

12月19日にはクリスマス会があり、補充指導を終了した生徒も多数参加し、ケーキやプレゼント、bingoゲームなど楽しい時間を過ごしたようです。

11月から始まった通室指導（9:00~12:00週

4回）には、現在、中国とフィリピンから来た4名の生徒が在籍しています。ほとんどの生徒がゼロからのスタートで「サバイバル日本語」（まず必要になる日本語）やひらがな、カタカナなど個々のペースに合わせて学習しています。その中の一人は2か月間の学習期間を終え、更に3か月の補充指導を受けています。日本の中学校で初めての学力テストを受け、進路について不安になったのか入試に関しての質問が出たりもします。今は職業体験、そして2月には学年末テストと忙しそうです。これから生徒たちの在籍している中学校を訪問して、情報交換などをし、来年度の指導に生かしていくことを思います。（彼ノ矢）

## ＜たぶんかフリースクール新宿校＞

2月、新宿校では受験生の他に1月の在京外国人枠に入試に合格した生徒達が、来たる高校生活に向けて「高校進学コース」で勉強しています。合格しても休まず登校する“たぶんか大好き”な生徒たちですが、勉強が好きというより友達と一緒にいることが好きな子たちなので、受験のプレッシャーからも解放され羽目を外して先生に怒られることもしばしば。

「高校進学コース」の内容はこれまでの国・数・英の他、初めて取り組む子もいる理科と社会です。とくに社会はほとんどが初めて聞く内容。

ある日の授業は「日本の都道府県の名前を覚える」と題して東京をのぞいてもあと46もあるうえに、漢字の読み方が難しいこともあり、四苦八苦。それでも「行ったことがある!」「聞いたことがある!」と少しでもとっかかりを探して覚えようとしています。

先生「富士山がある県です。“し”ではじまります」

Mくん「う~ん」

先生「“し”的次は“す”です」

Mくん「しづ…しづ…“しづかな県”！」

おしい!

理科では、母国で勉強したことがある内容でも、日本語の言葉が難しいことに苦労をしているようです。それでもこれは知っている!ということがあると、一生懸命に「こういうことでしょ」と伝えようとっています。授業の様子を見ていると、私が知らないようなことを生徒たちが知っていて、驚くこともあります。まだうまく言葉で表現できないだけいろいろな知識や可能性を持っている生徒たち。高校でそれを発揮してくれることが楽しみです。

国語の時間でも、古文や漢文などをはじめて勉強しています。現代の日本語でさえまだまだの生徒たちに古文はかなり厳しいですが、少しでも知っておかないと…と、先生達も時代背景と一緒に教えたり、百人一首のカードをつかったりと工夫をして授業をしています。

この時期はこれから受験の子たちを中心に回っているフリースクールですが、合格した子たちも、入学する時には少しでも他の子たちに近づいているよう、がんばっています。（事務局 中野）

## ＜クリスマス＞

12月15日(土)にたぶんかクリスマス会を行いました。参加者は昨年度よりも更に多く、総勢90名が参加し、とてもにぎやかな会となりました。

クリスマス会のチラシが教室に貼られてから、子どもたちは「誰が来ますか?」「どんな食べ物があるの?」と同じ質問を何度もしてしまうくらい、この日をとても心待ちにしていたようでした。今年もたくさんの方にご支援、ご協力いただき、たくさんの食べ物やプレゼントが並び、子どもたちは大興奮、大満足でした。この日だけは勉強のことも忘れて、歌にダンスにおしゃべりに、みんな思い思いに会を楽しんでいました。

毎年恒例のプレゼントを懸けたゲーム大会は参加人数が多くだったので、シンプルでわかりやすいbingoゲームを企画したのですが、知っている子もいるだろうと思っていたbingoはほとんどの子どもたちが初めてで、説明に苦労しました。しかし、み

んな一度ルールがわかるとものすごい熱中ぶりで、数字1つ出るごとに、床が抜けるぐらいの大騒ぎ。みんな思い切りパーティーを楽しんでいました。

また、毎年このクリスマス会は、子どもたちがいつも支えてくれている人たち、久しぶりの友だち、一步先に行く先輩たちに出会える場にもなっています。今年もフリースクールや土曜日の学習支援教室に来ている子どもたちだけでなく、多くの卒業生が準備から参加して会を盛り上げてくれました。1年ぶり、2年ぶりの顔も見られ、卒業してもみんながつながっていられること、集える場があるということはとても素晴らしいことだと思いました。そして、これまでこの場を支えてくれた多くの方々に感謝しつつ、これからもつながりが広がるよう、この場を大切にしていきたいと思いました。

(事務局 千田)



12月12日親子日本語教室でサルの顔の蝋燭を作りました。今回は大人クラスからも3名参加され、こどもクラスの12人と一緒になって蝋燭作りを楽しみました。この蝋燭作りはNPO法人キュリオシティから紹介いただきました。キュリオシティでは高校生のチャリティー一起業体験を支援しており、今回高校生がバザーで販売することを計画し、その一つとして、今年の干支であるサル（申）の蝋燭を選びました。

12日はキュリオシティから大学生ボランティア2名、高校生2名が来て、みんなに作り方を説明し、実演してくれました。しかし、こどもたちは手も小さく、力も弱く、なかなか蝋が柔らかくならず思い通り

に形ができません。使い捨てカイロの熱では蝟は柔らかくならず、急速大きな鍋にお湯をいれ、鍋で蝟燭を温めました。ようやく蝟が柔らかくなり、こどもも大人も思い思いの形を作ることができました。

一つ目は、ボランティアが指導して見本通りのサルの顔作りを目指しました。そうして仕上がったサルの顔は作った人の個性が表れており、一つとして同じ顔はありませんでした。二つ目は自由に顔を作ってもらいました。可愛さアップした顔、笑った顔、怒った顔、サルかペンギンか判らない顔、口ポット顔・・・いろいろな顔が30個揃いました。(叶)

## 子どもプロジェクト

受験期を迎え、土曜日の子どもプロジェクトには机や椅子が足りなくなるくらいたくさんの子どもたちが通って来ています。子どもプロジェクトは、たぶんかフリースクールの生徒にとってもそうですが、特に普段中学校に通っている中学生にとって、何でも相談できる場、友だちと不安や悩みを共有できる場、思いっきり話せる場、週に1度の大切な時間になっているようです。

受験を目前に控え、「どんな試験がありますか?」「面接はどんな質問が出ますか?」「私は高校に行けますか?」不安を抱えながら高校進学の相談に中学生がたくさんやって来ています。中学校には通っているものの、日本に来て間もない子どもたちにとって高校

入試はわからないことがたくさんあって、何も準備ができないまま時間だけが過ぎてしまい、受験直前になって慌てて相談に来る中学生もいます。みんな相談できる場所、高校に入るため勉強する場所を探しています。

今まで相談に来た子どもたちの中には、高校進学について情報がなかったために、受験の機会を逃してしまったという子どもも何人かいいました。「もっと早く知っていたればよかった。」、「知らないかった。」そんな声がなくなるように、そして子どもたちが皆、安心して受験に臨めるよう私たちもサポートしていきたいです。(事務局 千田)



# いいね!



facebook.com/tabunkatokyo

## 多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



53人

2月10日

のかたが「いいね！」を押してくれました。

新宿校でいちばん最後にできたクラス、日本語4ではただいま面接の練習中。想定される質問の答えを先生たちと考え、それをひたすら暗記。けれど9月10月にひらがながら日本語の勉強を始めた生徒たちにとって新しい単語もたくさん出てくる文章を覚えるのは大変なことで、短いものでもなかなかすんなり出てきません。

Kくん「今日はどうやって本校まで来ましたか」「駒込駅から、ら、らんぽる…」

ランボルギーニは車です。 正しくは「南北線」

Aくん「高校を卒業したらなにをしたいですか」「私のよめは…」

えっ、結婚するの!? 正しくは「私の夢」

もちろん本人たちは真剣ですから、こっちもつっこみは心の中だけにして、冷静に訂正。生徒たちの、内容を思い出そうとして視線をさまよわせている姿を見守りながら、今日も練習です。



57人

2月12日

のかたが「いいね！」を押してくれました。

たぶんかフリースクール荒川校には、東京都内だけでなく、千葉県や埼玉県、なかには通学に片道1時間半以上もかけて通って来る生徒もいます。受験シーズン真っ只中のフリースクール。3都県それぞれ受験の時期が違うので、この時期は、既に進路が決まった生徒、これから受験に挑む生徒、そして、再チャレンジでがんばる生徒・・・複雑な気持ちが入り混じります。

今日は休み時間にこんなやりとりが聞こえてきました。

一足先に都立外国人枠入試で進路が決まったAくんが、一昨日受験をして、不安げなBくんに「テストはどうだった？作文は？」

「書けたよ。」

「じゃ、大丈夫！」

「でも・・・がんばったけど、たくさん的人がテストを受けたよ。」

「でも、一生懸命がんばったら、大丈夫だよ！」

去年の4月に出会ったころは、ひらがなを勉強していたのに、いつの間にかお互いに日本語で励まし合えるまでに成長していました。1人で勉強していたんじゃない。みんなの存在がお互いを成長させていたようです。

卒業を祝う会まであと約1か月。みんなと一緒に勉強できるのも残りあとわずかです。1日1日、みんなと過ごせる時間を大切にしてほしいです。

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。

皆様「いいね！」をよろしくお願いします。